

穂学

令和元年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 20]

令和2年1月8日(水)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「2020年(令和2年)がいよいよスタート！」

明けましておめでとうございます。旧年中は保護者の皆様商工会や総領事館の方々には大変お世話になりました。今年も様々な形でご協力を仰ぐこともあると思いますが、子どもたちのためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

昨年は元号が変わるといふ大きな節目の年でしたが、令和も2年目となり、令和の呼び名にも慣れてきたところです。

「2020年」と言えば「東京オリンピック」開催年ということもあり、日本国内をはじめ海外に住む私たちにとっても特別な年になることを期待してやみません。

今年の干支は「子(ね)年」ですが、「ねずみ」という動物が子だくさんであることから、「子孫繁栄」を象徴することは皆さんもご存じかと思いますが、そこから転じて、広い意味で「繁栄の年」が期待できるようです。ネットからの情報ですが、過去を振り返ると「子年」にはいろいろな事があったようです。

1960年(昭和35年)には、池田内閣が打ち出した「所得倍増」政策により経済が飛躍的に伸びました。また、1972年(昭和47年)には、札幌でアジア発の冬季オリンピックが開催されました。「日の丸飛行隊」という懐かしい言葉も思い出されます(私だけでしょうか?)。奇しくも今年もオリンピックイヤーとなっていますので、日本の活躍がとても楽しみです。1996年(平成8年)は、アムラーファッションに代表される新しいファッションやエンタメで大きな流行が起こった年でした。2008年(平成20年)は、ノーベル賞に4人の日本人が選ばれました。

もちろん、毎年大きな話題がありますので、どの干支でもこのような事があるかもしれません。2020年が経済・科学・文化、そしてスポーツなどで飛躍と繁栄の年になるといいですね。

さて、昨日の3学期始業式で、児童及び生徒代表あいさつ(決意表明)がありました。児童生徒一人一人が自分の目標に向かって頑張ることを応援したいと思います。

○児童代表、大橋穂乃梨(小5年)さん

「5年生としてキッズタイムのまとめをしっかりと行い、最高学年である6年生に上がることを考え、いろいろなことでレベルアップできるように頑張りたい。」

○生徒代表、高橋そよ(中1)さん

「キーワードは『挑戦』中学2年生は中学部の中心としての役割が大きい。目標をしっかりと決めることで自分がすべきことが分かる。その目標をしっかりと達成したい。」



2020年の子年が、児童生徒にとっても、また広州日本人学校にとっても、大きな飛躍の年となるように、職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

